大阪市立大学大学院・創造都市研究科　プロジェクト
創造都市研究科重点研究『創造都市を創造する』（２００３年度）
【目次】

＜＜２００３年度＞＞
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
【研究プログラムの目的・特色】
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

「創造都市」とは、都市が本来もつ新たな産業・文化・ライフスタイル・社会システムを創造する機能を回復した都市をいう。本研究は、メガ・ビジネス都市＝大阪都市圏を再生させる取り組みに参画する中で、メガ・ビジネス都市を創造都市に生まれ変わらせるための知識を創出し、世界のメガ都市再生への大阪モデルを提起することを目的とする。

従来の文献研究型や調査型の社会研究と異なり、本研究は社会人大学院としての特性を生かした、社会参画型の新しい研究方法を提起するものである。日本の社会科学として目的・方法ともに画期的・革新的な試みである。

以下、具体的な取り組みについて説明する。

（１）都市再生のための「実践的な知」の構築

「メガビジネス都市」大阪を創造都市にするための実践的な政策研究を行い、その社会実験を通じて都市再生のための「実践的な知」の構築をめざす。

１）大阪と関西大都市圏を「創造都市」に転換するための理論フレームを明らかにする。中小規模の都市を対象にしてきた従来の創造都市戦略を「メガビジネス都市再生モデル」へと発展させる。２）大阪と関西大都市圏に蓄積された産業・技術・文化資産を生かして新しい産業クラスターを形成するための地域戦略・産業政策を研究する。３）伝統的なコミュニティの再生や文化的少数者や失業者、ホームレスの自立支援を進める新たなエンパワーメント型の事業創造を通じて「多文化共生社会」実現のための政策を提示する。４）創造都市を構築するために必要とされる都市基盤として、情報通信基盤のみならず、社会関係資本にも注目し、創造的環境を作り出すための政策を提示する。

（２）具体的な取り組みへの参画を通した研究

個人・機関・自治体と提携し、大阪のいくつかの特定の地域において、地域を創造的存在とする社会実験の企画・実行に参画する。現在、以下の２件が構想されている。

１）扇町創造村

扇町・梅田・中津を結ぶ３角形を中心とする一帯（クリエイティブ・トライアングル）には、すでに多数のクリエータが住み、各種芸術系専門学校や多数の画廊などが立地している。メビック扇町・宝塚造形大学・マスコミなどと連携し、この地域を創造活動の活発な地域として振興する。

２）上町ルネサンス構想

大阪でもっとも古い歴史地域である上町台地を中心に、伝統的町並みを生かした商店街の再生や寺院などによる芸術支援のあたらしい動きを統合する「上町ルネッサンス」構想を提案し、重層的な文化活動が活発に行なわれる地域を形成する実験に参画する。

なお、本研究の遂行には、外部資金の獲得ばかりでなく、外部諸団体といかに連携するかが重要である。以下に関係諸団体等との連携実績を挙げる。

（３）研究者・地域リーダの育成

本研究は、現場的「知」の専門家である社会人学生の参加と協力を得て行なわれる。これは、創

造都市に関する若手研究者を養成する貴重な機会であるとともに、地域で活躍するリーダの養成機会でもある。

本研究は、社会人大学院の特性を生かした独自のものであり、類似の研究事例はない。研究科の重点研究として本研究が軌道に乗った段階で、研究の指導者を大幅に若返らせることを予定している。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【研究プログラムの重要性と発展性】

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

大阪ないし関西は、すでに５０年以上、いわゆる地盤沈下を続けている。最近では、大阪は、日本で最初に衰退期に入った都市とまで評価されている。この大阪と大阪都市圏を経済活動・社会活動・生活文化においてふたたび活発な都市ないし都市圏とすることは、設置者を大阪市とする本学がかならず取り組まなければならない課題である。大阪都市圏を現実に創造都市に転換しようとする本研究の重要性はいうまでもない。

世界には、大阪と類似して、衰退の危機に瀕する大都市が少なくない。将来、そのような危機に瀕する可能性のある都市は、途上国の大都市を含めてさらに多数ある。本研究の成果は、世界のそのような都市に貴重な先例を作りだすことになる。創造都市研究科は、「創造都市」を冠する世界で始めての研究科であり、その試みはすでに日本のみならず、世界的にも注目されている。本学が、創造的研究の世界的中心となることも夢ではない。

本研究は、たんに調査し政策を提言する研究ではなく、大阪都市圏を活性化させる運動に実際に参加し取り組む中で、都市再生の新しい知見を獲得・創出することを目指している。このような研究方法は、これまでほとんど試みられことのない新しい方法である。社会科学の方法としては、文献研究と調査研究に次ぐ第３の研究方法といってよい。この点では、本研究は学問的革新を起すものであり、社会研究の新しい方法の発信地として、本学が注目されることになろう。この経験に学ぶために世界各地の研究者や実践家たちが本学を訪問する機会も増えるであろう。これは学生の教育に寄与するばかりでなく、こうした交流を基盤として、さらに大きな学問研究を展開する基礎にもなると思われる。